



ARC インターンで、フランスの大学院に在学中だった荻野咲子が、ルワンダに入り、プロジェクトの状況を視察してきました。荻野インターンは、大学卒業後に日本企業で勤務したのち、JICA 海外協力隊で西アフリカのガボンで活動してきました。彼女が見たルワンダの様子をご覧ください。

和解のためのマイクロ・セービング（小口貯蓄）プロジェクトの近況

和解のためのマイクロ・セービング・プロジェクトの概要について

マイクロ・セービング（小口貯蓄）とは、村落レベルで 30 人くらいのグループを組織し、メンバーが毎週 1 口～4 口（一口の金額は 70 円前後）のを積み立てる取り組みです。その積立金からメンバーは融資を受けて小規模な商売を行い、利息をつけて積立金に返済したり、金融機関に組合の銀行口座を作って預金して利息を増やしたりします。一定期間（6 か月～9 か月くらい）がたった後に各メンバーはそれぞれが積み立てた口数に応じて配分を受けます。メンバーは積み立てた金額が 1.5 倍程度になって戻ってきます。農村部の貧困削減のための一つのアイデアなのです。

ARC は、現地カウンターパートである「ルワンダ・女性キリスト教徒労働者協会（ARTCF）」との協働により、ルワンダ南部州ニヤマガベ郡内の村落に新たに 100 団体のマイクロセービンググループ（小口貯蓄の組合）を設立しました。

この取り組みは、単なる貧困層のボトムアップのためだけではありません。ルワンダのジェノサイドという暴力を経験した社会の中で、生活向上のために協働を促し、その過程で少しずつ関係性を修復することを目指すものとして始まりました。

マイクロ・セービング事業を運営している現地 NGO ARTCF の Esperance さんと共に、首都キガリから四駆車で約 6 時間、終日悪天候かつ冷え込む中、Nyamagabe 郡へ。約 10 人のプログラム参加

者が出迎えてくれ、本プログラムに参加する前後でどう生活が変わったか、本プログラムがもたらしたものは何か、ということを一一人語ってくれました。グループでお金を出し合い、商業活動を行うことで、収入の向上が見られ、生活の質が改善したことはもちろん、多くの参加者が口にしたのは、みんなで一つの家族のように暮らすことで孤独から抜け出せた、人との繋がりができたということでした。このように、収入向上以外の変化を感じている参加者も多く、ジェノサイド後の和解という意味でも、本プログラムを継続的に行う意義を強く実感しました。（荻野咲子）



ルワンダ子ども支援基金プロジェクトの近況

現地パートナーの Ildephonse さんと共に、奨学支援先の学校 Nature Nursery School を訪問。コロナ前は教室いっぱいいた子ども達も、学校の財政難による教師の雇用ができないことから、多くの子ども達が転校を余儀なくされたそうです。また、印象的だったのが、教室の中で元気に楽しく学んでいる子どもがいる一方で、教育を受けられない子ども達がまだまだたくさんいます。道端から羨ましそうに眺める姿は胸が締め付けられるような気持ちになりました。ジェノサイドによる貧困格差は徐々に軽減しているものの、経済発展とコロナ禍で貧富の差はさらに拡大しており、現在貧困家庭の子ども達を対象に奨学支援を行っているルワンダ子ども支援基金の需要はより一層高まっている気がしました。また、子ども達の親とも対話をする機会がありましたが、日本からの支援

に感謝すると同時に、将来もこの支援が継続するのかという不安の声も見受けられました。支援が止まってしまったら子ども達はまた路上に戻ることになるからです。既存の子ども達への継続支援と新たな子ども達への支援、課題は山積みだと感じました。（荻野咲子）





ルワンダ子ども支援基金プロジェクトがまいた種は 次世代の子どもたちへー



現在のフェリックス君

ARC の「ルワンダ子ども支援基金プロジェクト」は今年で 20 周年になります。
20 年前に孤児院で生活していたフェリックス君は、プロジェクトの奨学支援で小学校を卒業することができ、さらに上の学校にも進学して、現在はルワンダ国防軍で勤務しています。彼は軍務のかたわら、ボランティアで近所の貧困地域の子どもたちを集め、サッカーチームをつくり、サッカー指導をしているそうです。彼は、自分が多くの人に支えられてきたように、今度は自分が次世代の子どもたちをサポートしていこうと熱心に取り組んでいます。
4 月に行ったオンラインイベントでは、彼の活動の様子も出ていますので、ぜひご覧ください。

こちらの QR コードから、当日の様子を視聴することができます →



女性の所得向上のためのバナナ工芸品製作プロジェクトの近況

ARTCF の Esperance さんと共に、貧困地域の一角にある家庭を訪問。そこには、狭いリビングでバナナ工芸品を製作する女性達の姿が。実際に、制作の様子を見学してもらいましたが、想像を超える技術とクオリティに、思わず自分自身のお土産としていくつか購入させていただきました。現在は、オンライン販売およびイベント時の販売のみですが、アフリカ雑貨を扱うブランドや店舗と提携するなど販路を

拡大することで、こういった素晴らしい製品がもっと多くの人の目に止まり、より多くの人の手元に届くのではないかと思います。そして、彼女達の口からも、マイクロ・セービングの参加者同様に、収入向上のみならず、こうやってみんなで集まって作業をすることで、人と繋がる機会が得られたことに満足していると語ってくれました。

(荻野咲子)



彼女たちの手作りの「バナナリーフカード」は、オンラインショップ [_by banana](#) でもお求めいただけます。



インターンチームのご紹介

ARC では昨年から、「ルワンダ子ども支援基金プロジェクト」のファンドレイジングを担うインターンチームがあります。ここで何人か紹介させていただきます♪ ARC のツイッター (@AroJapanNews) をさかのぼっていただくと、ほかのメンバーたちの紹介もございますのでぜひご覧ください♡

名前・学部・学年
ARCでの役職を
教えてください！

かねこ
経済学部3年
ルワンダ子ども支援基金の
寄付金インフラを担当しています！

大学で何を
勉強しているんですか？

貧困問題に興味があり、
経済学の中でも開発経済学を
専攻しています。
現在の留学先のケニアの
大学では、アフリカの政治や
開発を勉強しています。
アフリカの人々のために
働きたいという夢のため、
アフリカの人々が持つ価値観や
アフリカの様々な課題について
学んでいます。

名前・学部・学年
ARCでの役職を
教えてください！

かずま
英文科2年
広報兼PR動画の作成
に携わっています！

大学で何を
勉強しているんですか？

大学では英米文学を専攻し
ています。アメリカの英米
文学の作品を読み通してい
く中で、国際協力に興味を
持つようになりました。
今は、大学院進学に向け
て、英語の勉強はもちろん、
国際関係論をはじめとし
た様々な分野を独学中で
学んでいます。

**名前・学部・学年
ARCでの役割を
教えてください！**

もえ
グローバル・コミュニケーション学部3年
SNS・HPの運営に携わってます！



**大学で何を
勉強しているんですか？**

英語や、世界に関することについて
幅広く学んでいます。
また、日本語教師の資格取得を
目指して勉強しています。



**名前・学部・学年
ARCでの役割を
教えてください！**

かほ
国際協力科修士2年
イベントの企画・運営に携
わっています！



**大学で何を
勉強しているんですか？**

主に、紛争後の国際協力につ
いての研究をしています。



インターンの活動にご関心がある方は、ホームページの問い合わせフォームから、お気軽にお問い合わせください。

9月のオンラインイベントのご案内

**ルワンダ子ども
支援基金活動説明会**
-ルワンダの教育課題とARC平和構築の歩み-




こちらからお申し込みください

登壇者：小峯 茂嗣
ARC現事務局長
桃山学院大学国際センター講師

日時：9月14日(水) 20:00 - 21:00
オンライン(Zoom)開催

対象：国際協力に興味のある
学生や社会人の方



アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-6-1 四谷サンハイツ 511 号室 Tel/FAX: 03-3351-0892

ホームページ <https://www.arc-japan.org> (お問い合わせはホームページからできます)

